

四賀地区 図書だより

令和8年6月1日号

発行 四賀公民館図書視聴覚委員会
(事務局 TEL 64-3112)

本屋大賞にハズレなし?!

日本を代表する文学賞といえば、芥川賞と直木賞。誰でも聞いたことはあるだろう。いずれも1935年に創設された歴史ある賞である。あくまでも個人の感想であるが、選考するのは現役の作家が中心ということもあるのか、たいした読書家でもない私にとっては少し難解な作品が多い。

それに対して本屋大賞受賞作品は、どれを手にとってでも面白い。2004年に創設された、全国の書店員の投票で「いちばん売りたい本」を選ぶ民間文学賞である。もちろん読者の好みはあるだろうが、読みやすい作品が多い。好きな作家やジャンルの他に、次は何を読もうかなと迷った時は、本屋大賞の作品をチェックすることをお奨めしたい。また、何年も本は読んでないという方にもお奨め!

今年度の本屋大賞が4月に発表された。過去3年のベスト3、また4位以下のノミネート作品にも注目してほしい。四賀公民館図書室にもいくつか受賞作品があるので、興味のある方はお問い合わせを!

本屋大賞 過去3年のベスト3

2026年

大賞 『イン・ザ・メガチャーチ』朝井リョウ著
2位 『熟柿』佐藤正午著
3位 『PRIZE—プライズ』村山由佳著

2025年

『カフネ』阿部暁子著
『アルプス席の母』早見和真著
『小説』野崎まど著

2024年

『成瀬は天下を取りに行く』宮島未奈著
『水車小屋のネネ』津村記久子著
『存在のすべてを』塩田武士著



お待たせしました!

『四賀ホタルガイド』発刊



令和6年の四賀小4年生(現6年生)が「四賀科」で担任の柳沢先生と調査研究したホタルの集大成となる手作り本が、図書室に寄贈されました。

四賀に生きるホタル達の ★観察できる場所・地図入り★出現度★ホタルの種類★出現時期が載っています。子ども達と先生の渾身の作、是非手にとってご覧ください。

もうすぐホタルの季節になりますね!

図書室の利用案内

- 利用時間 平日 午前10時～午後6時 土曜日・祝日 午前10時～午後5時
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日、月曜日から祝日が続く場合は直後の平日)
12月29日～1月3日(年末年始の休館)
貸出期間 2週間以内 貸出冊数 5冊(うち新刊は2冊まで)
その他 ・貸出には利用登録カードが必要です 無料で作れます
(マイナンバーカード・免許証・保険証など本人確認できるものをお持ちください)
・カードは小さな子どもさんでも保護者の確認で作ることができます
・返却は公民館窓口でも受け付けます 松本市内図書館で借りた本の返却も受け付けます
・松本市図書館の利用登録をしていると 予約した本の受け取りもできます



新着図書・おすすめ図書のご案内



新着図書

児童書

『ここがすごい!ロボット図鑑』1、2
 『デコピンのとくべつないちにち』
 『五十音』
 『しょぼん ひらがな』

岡田 博元 監修
 大谷 翔平 さく
 北原 白秋 詩
 武田 双雲 著

『分水 隠蔽捜査II』
 『八州の風手控え帳』
 『青天』
 『劇場という名の星座』
 『こつこつ、オムレツ』
 『女の“変さ値”』
 『日本史年表・地図』

今野 敏 著
 あさの あつこ 著
 若林 正恭 著
 小川 洋子 著
 太田 忠司 著
 鎌田 實 著
 児玉 幸多 編

一般書



おすすめ本



『暁星』

湊 かなえ 著

山上事件を連想させる宗教二世をテーマに書かれた小説。「永瀬暁(あきら)」と「白金星賀(せいか)」の哀しい恋物語でもある。前半の『暁闇』は文科大臣を刺した殺人犯暁の手記の形をとり、後半『金星』は星賀の自叙伝。後半の『金星』で、前半では見えなかった真実が徐々に明らかになり、最後に『暁闇』の終章に戻ることによって物語は完結する。暁と星賀が苦しみの中で求めたもの、守りたかったものを読者に考えさせながら。



『晴れの日の木馬たち』

原田 マハ 著

倉敷の貧しい工女「すてら」が芸術と人との出会いに支えられ、小説家として自分の道を切り開いていく再生と成長の物語。明治～大正期の女性が筆一本で生きるために、強い意志を持って挑戦していく姿が描かれている。苦境が続くが、読後感はある。『いつか晴れる』というテーマが前面に出て「好きなことを諦めない」事への強いエールが込められている。



『暗黒の彼方』

堂場 瞬一 著

東日新聞の記者古山が、30年前の警察官僚の不審死と政治的陰謀を暴くミステリー。30年前の事件を、関係者への地道な取材と暗号読解で明らかにしていく緊張感あふれる展開に引き込まれる。社会的なテーマを背景に、新聞記者の「矜持」や真実を追求する熱い姿勢が描かれている。重厚なテーマながらテンポが良く、一気に読める。



編集後記

おばあちゃんの好きだった薄紫色のツツジを仏壇に飾った。庭の手入れをしていないので、気ままに大きくなっているツツジの木。「ちゃんと肥料やって面倒みてね」と言われた気がした。
 寒くなく暑すぎず、心地よい季節の今、色とりどりの花を楽しみながら庭仕事をがんばろう・・・腰のご機嫌をみながら(T-T)ね。

